

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

反り仰ぐ崖に一輪岩煙草

児玉 典子

木漏れ日に三筋の光岩清水

泊 康

大岩にもたれて涼む一日あり

宮路 生大子

大陽俳句会

選挙カー去りし一村雲の峰

福村 よう子

風無きに青柿落ちる音しかと

逆瀬川 節子

さき程の雨は何処へ月涼し

岩重 みどり

短歌

末吉短歌会

宵ごとに厨の窓に腹見する
ヤモリは夏の闇を連れ来る

宝蔵 弘二

題 字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

わが日記盗み見しつつ眠る猫
読まれたくないわたしの心

長倉 佳津子

吾の名の消へし勤務表無造作に
デスクに置かれ他人めく顔

森岡 ちどり

大陽短歌会

七夕の短冊にしろす願ひ事
寄り添いくるる姪に花婿を

竹内 娃子

夏の夜テレビの映す巨人戦
娘と吾の視野は異なる

米澤 正敬

地下足袋を通し伝わる日の照りを
木陰に腰すえこはぜを外す

安藤 フヂ子

財部短歌会

ゆれ揺れる田をかけぬけて吹く風の
緑のにほひに一日始まる

井上 澄子

村人がひそかに手向ける悲恋の地
四百年過ぎし令和の今も

児玉 次雄

薄暗く厚き雨雲晴るる日を
こころ待ちする梅雨あけ宣言

杉村 リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

農作業ち 日中つ暑つ

農作業ち 日中つ暑つ

暑つ晩 輝とシミズで

暑つ晩 輝とシミズで

胡摩ヶ野 べぶまつ

暑つ晩 内心から冷酒を

暑つ晩 内心から冷酒を

爺ん禿い 湯気が舞ちよい

爺ん禿い 湯気が舞ちよい

大陽薩摩狂句会

月く仰向つ ビール片手い

津留 群志

初デート 嬉し恥なか

初デート 嬉し恥なか

月の夜じゃ 鼻歌も出い

月の夜じゃ 鼻歌も出い

炭坑節 貯めがなるそな

炭坑節 貯めがなるそな